



□□ _____ □□

1. 年頭所感 ...あけましておめでとうございます

□□ _____ □□

あけましておめでとうございます。

昨年は5月に「2022岐阜全国大会」が、11月には「2022日本自費出版フェスティバル」が共に3年ぶりに開催されました。「やはり実際に顔を合わせての交流はいいですね」という声が多く聞かれましたが、これも多くの会員のご協力があったのことと思います。改めて感謝申し上げます。今年も文化賞の1次2次選考と旭川での全国大会、NPO認定アドバイザー試験、市ヶ谷でのフェスティバルなどが予定されています。

よろしく願いいたします。(川井信良)

□□ _____ □□

2. お知らせ ... 今年の全国大会は25年ぶりの北海道です

□□ _____ □□

今年の全国大会は、5月12日(金)に北海道の旭川で開催します。「2023旭川全国大会」です。北海道での開催は25年ぶりです。当時を振り返りますと、1998年1月27日、厳冬期の札幌でした。前年に日本自費出版文化賞の開設が決まり、第1回の募集を開始した時期です。札幌大会の講師は取次の地方小出版流通センターの川上賢一社長で、講演後の分科会は、「受注拡大」「編集・製作」「流通」の3つに分かれてストーブを囲んで熱く議論したことが思い出されます。それから25年経ちますが、今年の旭川大会も期待してください。そして安い航空券が販売されましたら早めにゲットしておいてください。

□□ _____ □□

3. お知らせ ...第26回日本自費出版文化賞の応募件数
12月20日現在94点

□□ _____ □□

第26回日本自費出版文化賞の募集が12月1日から始まりました。26回から応募手数料を2千円から3千円に値上げしましたので応募数がどうなるか心配していましたが、12月20日現在で94点(去年は88点)となっていますので少々安心しています。

ここ2年の800台、700台をなんとか確保して、数年後には1000点を
目指していきましょう。

□□ _____ □□

4. ニュース ...NHK『プロフェッショナル仕事の流儀』に
ぼっと舎 大西寿男氏が出演

□□ _____ □□

2023年1月13日(金)夜10:00～ のNHK『プロフェッショナル仕事の流儀』
でぼっと舎 大西寿男(としお)さんが出演します。
「校正」という仕事に焦点を当てた番組のようです。
大西さんは2011年10月の第17回自費出版アドバイザー養成講座
「自費出版における校正のこころ」の講師でした。

□□ _____ □□

5. お知らせ ...第39回自費出版アドバイザー講座2/10に開催

□□ _____ □□

2023年2月10日(金)15:00-16:40に
リアル+オンライン形式で
第39回自費出版アドバイザー講座を開催いたします。
※リアル開催の場所は、ジャグラ本部会議室

【講座名】

日本自費出版文化賞初代選考委員長
色川大吉先生と自分史について

【講師】

株式会社 清水工房相談役、日本自費出版ネットワーク顧問 清水 英雄 氏

【内容(予定)】

2021年9月にご逝去された歴史家の色川大吉先生。
日本自費出版文化賞設立当初から、20年の長きにわたり、選考委員長を務められました。
近代の大きな歴史の流れと同時に、「自分史」の名付け親として、市井の人々の記録にも
注目し続けました。先生が「自分史」の試みの中で捉えようとしたものや、自費出版ネット
ワークへの期待などについて、文化賞選考委員長就任を依頼した清水英雄さんをお招
きして語っていただきます。ネットワークの歴史にも触れられる貴重な機会です。

★詳細、申込に関しては、チラシをご覧ください。

□□ _____ □□

6. 自費出版事情 ... ~会員便り~ №61

□□ _____ □□

「奇跡の出会い」

営業時間もかなり過ぎた夜、電話が鳴った。

「御社で出版された本をアマゾンで買って読んだのだが、これを書いたのは、僕が満州にいた数十年前、近くに住んでいた親友だった人だ。ぜひ、ご遺族と連絡を取り合いたい」

高齢と思しき男性の声は興奮気味だった。

男性がアマゾンで見つけた本は、今から数年前に出版されたもので、そのタイトルには、彼が言う親友の名前が入っていた。彼は偶然にもその名をアマゾンで見つけ、「もしや」と思って購入。早速、読んでみたところ、「やはり」と、弊社に連絡してきたのだった。

この本は、一足早く日本に戻った親友が、学徒動員兵として亡くなるまでを遺族らによってまとめられたもので、戦地に赴く若者の苦しみや思い、家族との往復書簡などが収められていた。

この高齢の男性の件をご遺族に伝えたと、先方は突然の出来事に驚き、同時に感激し、ぜひ、連絡を取り合いたいと熱く応えてくれた。

戦後70年近く経った後での、あまりに不思議な邂逅。本は一人歩きするものだとは思っていたが、このような旅もあるのだなと、自費出版された本の良さをしみじみと知った出来事である。

さて、皆様は、どのような旅と出合っているのだろうか。

自費出版の会(運営/株式会社ブックコム)

三浦 均

□□ _____ □□

☆ 知つとこ旭川 その 8

□□ _____ □□

雪の中から、明けましておめでとうございます。

先月号で根雪が待ち遠しいように書いてしまいましたが、あれから1度の降雪でそのまま根雪になってしまいました。

冬将軍はこのメルマガを読んでいるのでしょうか。

外は真っ白、一面の銀世界です。年末に大雪に見舞われた南の方々は銀世界を楽しむということはないようですが、メルマガが届く頃は落ち着いていることでしょう。

旭川市は北海道の真ん中なので、日本海やオホーツク低気圧の影響はさほどひどくなく、積雪量は多いが(我が家の庭で年末30センチ)、吹雪は比較的少ないところです。旭川空港は強力な除雪部隊が働いて就航率99.1%を誇っていますが、先日は急に冷えたため深い霧が発生、やむなく新千歳空港に着陸したとのこと。急に冷えると川や空気中の水蒸気が霧になってしまうようです。零下15度くらいになると川から湯気が立ち上がってきます(川霧)。周辺の木の枝に霜が付いて真っ白になり寒さ忘れて見入ってしまいます(樹氷、き花)。

転勤族は当初大変ですが、3年して慣れた頃、また転勤していきます。または、気に入った家族は残って逆単身赴任になる人もいます。雪は空気中のチリを巻き込んで降りますので、空気が清浄化されているようで、冷え切った青空の日は実に爽やかです。この空気を気に入ってもらえるとうれしいです。

冬のイベントはさっぽろ雪祭りが有名ですが、旭川も同時期に冬まつりを開催しています。札幌は雪像は大きいのですが、雪だけでなく何かで支えているようです。

